

広島電鉄、無人化運行を支える新システムにATEN製品を採用

駅前大橋ルートの開業で進む 自動制御・遠隔監視の高度化



導入先

広島電鉄株式会社

導入製品

RCMDVI101 / CN9600 / KA8280 / RCMS

活用シーン

運行管理および監視カメラの遠隔制御

2025年8月3日、広島電鉄はJR広島駅ビル2階に直結する新線「駅前大橋ルート」を開業しました。駅と都心部のアクセスが向上し、移動時間の短縮も見込まれています（広島電鉄発表）。地下鉄ではなく、路面電車を都市の交通網の軸に据える広島の取り組みは全国的にも注目されており、今回の新ルート開業はその象徴となっています。

この大規模プロジェクトでは、広島電鉄が ATEN の RCMDVI101、CN9600、KA8280、RCMS を導入し、運行管理および監視カメラの遠隔制御システムの中核を担っています。本インタビューでは、その導入背景、効果、そして今後の展望についてご担当者様に伺いました。

取材のご協力

広島電鉄株式会社

電車事業本部 駅前プロジェクト推進部 課長 上田 賢治様

Q. ATEN製品を導入した背景、目的について教えてください。

上田様：2025年8月3日にJR広島駅ビルの2階へ乗り入れて、広島電鉄の新路線（駅前大橋ルート）が開通しました。従来は信号員を配置して運行管理や信号制御を担っていましたが、新路線開業にあたって、すべて自動化することになりました。この自動制御では、2階の高架上がって入駅する手前でポイントを自動転換し、進路を確定して信号を出します。その信号を確認して電車が出発します。

自動制御に伴い、監視カメラを各所に設置し、運転司令室で運行管理や現場の監視を行うことになりました。監視カメラ映像の確認やデータ取得などを遠隔で行う設備が必要となり、取引先に相談した結果、ATEN製品が候補上がり、採用に至りました。

Q. ATEN製品を採用した決め手は、何だったのでしょうか。

もともと広島電鉄では一部の駅で ATEN 製品を利用していた背景があります。以前から横川駅に監視カメラが設置されていて、ATEN 製品の RCMS で管轄している江波から遠隔操作していました。

従来は広島駅の一部にカメラを設置して現地にて監視していましたが、新路線の広島駅は完全に無人化するため、監視する場所がかなり多数にのぼります。電車が駅に近づく位置などをすべてカメラで監視しているので、リアルタイムでカメラを切り替えて大量の映像を処理するには、今回導入した製品が最適でした。

Q. 導入時に苦労をされたことや工夫されたことがあれば、教えてください。

新路線開業に向けて今年4～5月頃に監視カメラを設置し、6月から本格的な試運転を実施。カメラ映像を確認しながら検討を進めました。たとえば、数多くの監視映像を運転指令室のモニターにどのように並べると見やすいのかを考えました。監視を担当するスタッフの意見を聞きながら、映像の配置を入れ替えたり、画面サイズを調整してメリハリをつける場所や、緊急時のみ表示する場所などを検討し、試行錯誤のうえ最終決定しました。

Q. ATEN製品に関して、運転指令を担当されているスタッフの皆様からはどのような評価をいただいていますか。

リアルタイムで複数のカメラ映像を表示し、直感的に切り替えられる操作性が好評です。途切れもなく、鮮明な映像が安定して送られてくる点が高く評価されています。



▲広島電鉄株式会社 上田 賢治様



▲運転指令室での複数のモニター画面
※ぼかし加工をしています

Q. 監視カメラの映像を映し出す運転指令室のモニターは、どのような画面で構成されていますか。

上田様：固定の監視カメラ映像を通常、4画面構成でモニターに出しています。固定カメラのほか、1カ所のみホーム全体を見渡せる回転式カメラの映像を1画面で表示しています。ほかに、路線の分岐箇所でもカメラがあります。これは電車が左に行くか右に行くかという分岐地点のカメラで、通常は監視する必要がないので表示しませんが、障害等で分岐器がうまく動かなくなったときに、切り替えて表示できるようになっています。

Q. 運転指令室のほかに広島駅の「電気室」でもRCMMSを採用いただいています。こちらでは、どのように使われているのですか。

広島駅に何かがあって運転指令室との通信が途絶えたときには現場に急行して、電気室（機械室）の設備でも手動で進路制御ができます。電気室は駅の1階部分にあり、監視カメラを見ながら進路制御する必要があるため、広島駅に設置してあるカメラはすべて見ることができます。



▲運転指令室での4画面構成でのモニター画面(左下を除く)
※ほかし加工をしています

導入製品

RCMDVI101

1ローカル/リモート アクセス共有
1ポート DVI KVM over IP
(リモート制御&監視用API (DLL) インターフェース対応) (カスタム専用製品)



CN9600

1ローカル/リモート アクセス共有
1ポート DVI KVM over IP
(解像度1920×1200、RS-232 DTE/DCE対応)



KA8280

KVM over IP
コンソールステーション



RCMMS

RCMデバイス用リモート制御&監視管理ソフトウェア



導入効果



遠隔監視の一元化

運転指令室と電気室の双方で
全カメラ映像を確認でき、
緊急時も即座に状況把握が可能に。



リアルタイム映像の安定表示

多数のカメラ映像を鮮明・途切れなく
表示でき、4画面構成や
切替操作にもスムーズに対応。



直感的な画面操作性

スタッフが見やすいように
レイアウト変更や拡大表示が簡単に行え、
現場に適した監視環境を実現。

今後は既存路線での導入も視野に



上田様：遠隔で制御できるカメラを付けたメリットとして、従来は障害発生時、列車無線や現地からの連絡がなければ状況を把握できませんでした。現在は映像によりリアルタイムで状況確認が可能になりました。運転指令のスタッフの間では管理がしやすいと好評で、「ここにもカメラがあると便利なのでは」という場所の要望も上がってきているので、今後、既存の路線でも増設する可能性があります。



Web サイト
<https://www.aten.com/jp/ja/>

入って安心！
製品保証延長
オプション



・掲載されている商品名・会社名等は、各社の商標並びに登録商標です。
・掲載した商品の仕様等は予告なしに変更する場合があります。

お問い合わせ・ご用命はこちらまで
お申し付けください

ATEN
ATEN ジャパン株式会社

東京本社
〒116-0003
東京都荒川区南千住 3-8-4 ATENビル
TEL : 03-5615-5810 FAX : 03-3891-3810
Email : sales@atenjapan.jp

東京支社	九州営業所	広島営業所
大阪支社	名古屋営業所	仙台営業所
札幌営業所	その他支店情報については 右記QRコードからご覧いただけます。	

